

# コルテス 伊藤の我が音楽人生

## 第20回 MUSIC IS NEVER DIE

こんにちは。ご無沙汰してしまいましたが皆さんいかがお過ごしでしょうか？

実はこのコラムの前に保険医協会の方には原稿を提出してはいたのです。それは、いまだに問題となっているコロナウイルスが猛威を奮っていた時期に書いた原稿で、正直暗い内容のものでした。社会が目に見えないものにより恐怖のどん底に陥っている時期に、明るい音楽の話の正直書けません

でした。保険医協会事務局の方にも気を使って頂いたのか、待てど暮らせどその原稿が活字になることはありませんでした。

ある時、保険医協会事務局の方からご連絡を頂き、もう一度原稿を書き直していた

だけないかと打診されました。もちろんお引き受けさせて頂きました。コロナウイルスが少し収束の兆しで自粛及び厳戒態勢が解除されたので良いかなとも思いましたので。

しかし、いまだに東京の感染は続いています。世界もあらたに第2波に対して警戒を強めているのも事実で歯科医院は大丈夫ですが、コルテスはもろにコロナウイルスのあおりを受けました。ライブは2月から6月までゼロです。喫茶の営業も週4日で尚且つ時間短縮で6月より再開しましたが、4月、5月と全面休業していたものですからほとんど常連のお客さままで姿を消してしまいました。元々沢山のお客さまがいたわけではないので苦にはなりません、知り合いのライブハウスが次から次へと閉店していく様を見ていると音楽産業そのものが減んでいく様な気がします。

音楽なんてなくても不自由しないし、生活にも支障はないことが心のどこかで気づいた人々が

増える傾向は正直音楽そのものの存在を消していくような気がするのも事実です。

1968年から1978年の10年間はロックもジャズも発売されるレコードが心ときめくものばかりでした。PCもYouTubeもない時代ですから、それは聞きたくて聞きたくてたまらないアルバムの目白押しでしたね。

そんな興奮を一切無にしたのが今回のコロナウイルスだと思います。

ミュージシャンの方々も苦勞しながらライブを配信したり、人数を制限してライブをしている姿を拝見すると、辛い時代だと、つくづく実感致します。

声を出せない。2メートル離れてライブをやりなさい。マスク着用で。収容人数の20%。ドームやどんなに広い会場でも上限1,000人。ステージとの間にビニールのカーテン。そんなライブなら見たくもないし、やりたいとも思いません。果たして日本および世界の芸術、娯楽、音楽そして広義の経済はいつまでこうなってしまうのだろう。

すみません、書いているうちにどんどん暗い感じになってしまいました。

コロナウイルスの打破にはやはりワクチンしかないのでしょうかね。日本や世界の医学者は優秀な人材が沢山いらっしゃいます。今はそれを待つしかないですね。そしてこの世の中が以前のような姿を取り戻す

ことを切に願います。

MUSIC IS NEVER DIE

この言葉を心のどこかで持ちながら全人類の復活、芸術・音楽の復活を皆さんと共に待ちま



しょう。

今回もやはり愚痴っぽくなってしまいました。早く音楽やオーディオやレコードなどの話をできることを願って筆を置きます。

実はこのコラム、今回でお役目ごめんと思っておりましたが、皆さんの続けてくださいという熱いお言葉を頂きましてWEB版として続けさせて頂くことと相成りました。書くからには頑張ってやります。今回の騒動が終わるまでは絶対に続けていこうと思います。

先生方、協会の皆さん大変な世の中ですのでどうぞご自愛くださいませ。私も糖尿病、高コレステロール血症とお付き合いしています。体のバランスが相当崩れまして左肩はいつも腫れぼったい感じです。また、物忘れが酷く目の前の物を探したり、酷い時には手に持ったものを探している次第(笑)。しかし、CHICAGOという1969年デビューのメンバー全員の名前は忘れません。それだけ音楽に対しての思い入れが強いのですね。

それでは次回WEBでお会いいたしましょう。

### 【お知らせ】

連載コラム「コルテス伊藤の我が音楽人生」は第20回をもちまして、保険医新聞紙面上での掲載が終了となります。今後は、茨城県保険医協会ホームページ上で、連載を継続します。協会ホームページでは、第1回のコラムから全てを閲覧できます。

詳細は、茨城県保険医協会ホームページをご確認ください(茨城県保険医協会ホームページ: <https://www.ibaho.jp>)

